

通常理事会（28.3.23） 議決

平成28年度

事業計画書

平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで

公益財団法人河野臨牀医学研究所

平成 28 年度事業計画

1 基本方針

- (1) 再生医学研究では大学、研究機関との連携を深め、再生医療への応用を目指す。
- (2) 臨床医学研究及び教育、研修では、急性期から在宅リハビリテーション迄の一貫したリハビリテーション等の臨床医学研究と地域で必要とする施設の整備及びセラピスト育成などによる地域保健医療の確保と質の向上を進めるため、公益目的事業の内容の変更申請を行い、補助制度を活用して附属品川リハビリテーション病院の耐震化移転と病床機能の分化推進及び老人保健施設（新設）と品川区の公立図書館を合築した施設整備計画を進める。
- (3) 予防医学研究では、抗加齢、未病等の健康情報を収集分析し、PHR 構想を実現できる真の予防医学センターと地域に貢献できる取組みを計画的に進め、付加価値を毎年高める。
- (4) 人事制度の抜本改革を進めるとともに、人材の確保と事業を担う臨床医学研究者の育成を図る。
- (5) 附属第三北品川病院の医療体制を強化し、医療の質とサービスの効率化、地域連携の強化を進め、収支均衡を実現する。更に、大型投資に備え法人全体として財務の健全化に取り組む。

2 事業計画

難病その他治療困難な疾患の医学的研究事業(公1)

医学研究及び定款第3条の目的である地域保健医療の確保と質の向上を図り、医学の発展と地域の福祉増進に寄与する。

(1) 基礎医学研究

基礎医学研究はこれまで、胆道閉鎖症の肝再生を目指した細胞生物学的研究並びに間葉系幹細胞を用いた軟骨再生に関する基礎的研究を行ってきた

平成 28 年度は、これらの研究を更に加速、発展させ、胆道閉鎖症肝組織に由来する肝幹・前駆細胞の肝細胞分化に関与する液性因子（未知の因子含む）の解析、

同細胞の分離と成熟化の試み、同細胞の凍結保存の検討、間葉系幹細胞の軟骨分化に及ぼすヒアルロン酸添加の影響の検討を行う。その他従前からの研究について様々な解析を進める。

研究成果は国内の学会で発表、海外専門誌に投稿する。

更に、臨床医学研究、予防医学研究と一体的に研究を推進し、臨床研究の質の向上を図るため、引き続き財団の臨床医学研究者育成に努める。なお、研究所所長は米国細胞研究専門誌論文審査員だが、平成 28 年 2 月から米国の SRL Stem Cell & Research journal の journal Editor Board にも加わり再生医学研究の進展に寄与する。

(2) 臨床医学研究

安全・安心で高質の医療を提供すべく、体制を強化して、病院と研究所の緊密な連携のもと、医療現場の課題を研究にフィードバックし、かつ患者の QOL 向上を図り、家族等環境要因にも配慮した医学系研究を進め、成果の発表を行う。

現状、難病その他治療困難な疾患の医学系研究は、急性期から維持期までの医療面を行ってきた。今後は更に内容の充実を図るべく、急性期から在宅までの一貫したリハビリテーションを目標に、医療介護等の研究を進め、有効な治療計画の策定等に貢献する。また大学等と連携した医学系研究を拡大する。

引き続き、新薬の有効性及び安全性を確認するための治験に積極的に協力するとともに、日常診療における市販後薬や新しい治療方法の安全性、有効性、確実性等の評価、検証を進め、情報提供を行い、医学の発展に寄与する。

(3) 予防医学研究

メンタルヘルス不調等に対して、組織における内的・外的要因による環境の変化と発症との因果関係等「組織診断」という考え方で受診者情報を積み重ね、より早期に疾患を発見しより有効な対策を立てる方式の確立をめざした研究を推進する。

また抗加齢、未病に関する研究を進める。

PHR 構想を実現できる真の予防医学センターとなるよう計画的に事業を進める。

(4) 研究成果の普及・啓発

河医研研究年報（和文、英文）発刊、論文発表、学会発表、品川区及び地域団体等と連携した市民等に対する講演会開催、区の行事等での相談会・啓蒙活動、地域啓発誌及びパンフレット等の発行を通じて広く社会に向けて疾病の治療方法改善、予防方法、患者の生活の質向上に関する啓発活動を推進する。

(5) 教育・研修

河医研医学会総会・研究発表会の開催、医師臨床研修の取組を図る、品川区リハビリテーション・ネットワーク開催（品川区中心に大田区含む地域のリハビリテーション従事者に対する症例研究・教育等）、救命救急士再教育実習、地域の介護従事者・リハビリテーション学習者等に対する実習、ケア等の人材育成のための行政等と連携した専門スタッフ向け講演会の開催・講師派遣協力等を行う。

平成 27 年度から、日本培養学会に講師派遣し、組織培養指導士育成等人材育成に協力している。

(6) 医療施設等の設置及び運営

- ・附属第三北品川病院は、大学との連携を強化して医療体制の再構築、業務改革の取組により、病院運営事業の強化を図り、医療介護連携を進め、徹底した業務の効率化を行い、病院規模に見合った医業収益を確保する。安全・安心の医療の提供、療養環境の整備を進める。そのため運営体制を見直す。

大学と連携して各種外科センター的機能を充実、研修機能の強化を図る。

- ・附属品川リハビリテーション病院は大学と連携してリハビリテーションの一層の充実及びセラピストの増員、教育を進める。

シームレスなリハビリテーションを進め、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう施設整備計画を進める。

- ・附属北品川クリニックは、ストレスチェック等通じ組織診断の考え方で取り組みを強化する。メンタル疾患への対応をさらに強化して進める。質の向上を図り外部評価を受審する。

(7) 地域保健医療の確保と質の向上

病院資源を活用し、休日全夜間の救急を積極的に支えていく。感染等予防にも積極的に取り組む。地域の要請が強い、リハビリテーションについては老人保健施設建設を可能になるよう進める。医療、介護の連携により地域包括ケアの構築にも積極的に貢献していく。大規模災害時の地域での取組みに積極的に貢献できるよう連携を深める。

(8) その他目的を果たすために必要な事業

- ・中長期計画にそって、各部署、個人目標を明確化し、環境整備等業務展開を通じて各個人の成長に寄与する。
- ・人事制度の抜本見直し、規則・規程等の整備、質の収益力強化で向上と効率化で収益力を高め、職員の努力に報い、良い人材の確保を図る。
- ・老朽機器、施設等整備を計画的に進める。
- ・収支改善に務め、財務の健全化を図る。

(9) 特定資産繰入

- ・品川リハビリテーションパーク計画(仮称)を円滑に進めるため、剰余金を建物建設資金目的に補助金・公的資金借入除く必要資金のうち最低必要額 160 百万円を目標として、平成 27 年度に 40 百万円の特定資産(建物)繰入を行い、平成 28 年度から平成 30 年度まで毎年 40 百万円の特定資産(建物)繰入を計画する。